



智慧の光明はかりなし 有量の諸相「」と「」  
光明かぶりおもむかなし 真実明に帰命せむ

車を乗り換えました。二十万キロを超えて走り、十三年間乗った車ですが、あまり長く乗つていたような気もせず、つい最近まで新車だったように思えます。新しい車は電気自動車でも、ハイブリッドでもないオーソドックスなものなのですが、車線をはみ出すとピピッと教えてくれたり、アクセルを踏まなくても前の車の速度に合わせて走つたり、やはり時代は進歩しています。それと、大きく変わっているのがライトだと感じました。すべてがLEDの光源になつています。家の中の電灯も、ほとんど」の十年余りでLEDに替わりましたし、街灯もLEDに替えられました。光の源は十三年で急速に変化していました。私たちの生活の中で（人生の中）光の役割は大変大きく、夜の暗闇の中を走る車のライトの役割は重要です。ご承知のとおりライトには一段の切り替えがあります。下目（ダウノン）と上目（アップ）です。幅広く回りを照らすことと、遠くまで照らすことと、良いほど、見えやすく、夜でも安全に運転できます。

冒頭の和讃で親鸞聖人は光について“智慧の光明”と表現されています。それは私たちの仏様である阿弥陀如来の働き（存在）そのものなのです。夜道の暗さは高性能LEDの光によつて幅広く、遠くまで照らす」とじよつて道に迷う」となく、

安心して目的地に走つていけます。同じように私たちは人生の道をひた走つていいのですが、それは無明の闇の中であり、人の目から出る弱い光では前も後ろも見通せません。同じ時代、同じ時間に生きるこの世界の出来事、同じ今地球に暮らす人々の痛みや悲しみも見えず、人の知恵の光では右も左も、一寸先の未来も暗闇の中で見通しがつきません。迷いに迷つて、恐怖と裏切りの中で疑心暗鬼になり、不安の中をさまよつて、不信と不満で傷つけ合い、争い、短い人生の道をまつすぐ歩んでいくことができません。その無明の闇を破り目的地に向けて道を歩ませてくれるのが“智慧の光明”、阿弥陀様の不可思議の光なのです。

株相場の意味は分かりませんが、その筋に明るい人は社会を見渡し、これから何が売れるのか先を見て儲けます。将棋は角が斜めに進み、飛車が横に進むことくらいしかわかりませんが、十七歳十一カ月での最年少タイトル獲得して三十年ぶりに記録更新した藤井聰太さんは何手もの先を見通す知恵をもつて相手に勝利します。私にはその力はありませんが、念仏の智慧によつてお淨土への道を幅広く照らされ、何事にも妨げられることなく遠くまで照らす真実の光明をもつて、人生を安心して歩んでいけるのです。お仏壇の灯明は菜種油の灯から豆電球に変わり、今は搖らめくLEDの光に変わっていきます。しかし、毎日お仏壇に手を合わせる時、今はお仏壇に手を合わせる時に、お念佛する中に、いつも変わりなく私を照らす真実の光明が見え、その光をより多く感じるとして世間の雑多な光に惑わされないだけない場合でも、あとでビデオとして載せますのでご覧いただけます。

智慧の光明”と表現されています。それは私たちの仏様である阿弥陀如来の働き（存在）そのものなのです。夜道の暗さは高性能LEDの光によつて幅広く、遠くまで照らす」とじよつて道に迷う」となく、

## ご報告

永代経法要を勤めました

出勤は勝林寺寺族総出で、お参りは今できる限りのコロナ予防策

を講じて例年通りに、永代経法

本堂全体に、間隔をとつて用意した席が

ちょうど満席になりました。お供え、お参りありがとうございました。坊守にとつての「初めての内陣出勤」を「報告しよう

と思っていましたが、緊張して外陣を見つけて、恐怖と裏切りの中で疑心暗鬼になり、不安の中をさまよつて、不信と不満で傷つけ合い、争い、短い人生の道をまつすぐ歩んでいくことができませんでした。（笑）そして、今回始めて、法要のライブ配信も行いました。

## 戦没者追悼法要をお勤めします

日時 八月八日（土）

午後二時より

一二日（水） 出石B盆

一三日（木） 出石C盆

一八日（火） 中山 宅 初盆

一九日（水） 勝林寺 子ども会

（中止）

二三日（日） 地藏盆

二六日（水） みのりを聞く会

（敬称略）

## ご案内

ただし、兵庫県が七月二十九日よりコロナの「感染拡大期I」にはいつたことを受け、今年は、代表者（責任役員、総代会長、仏社会長、仏婦会長、法輪会会長、遺族代表）のみの参拝で勤めさせていただく」といいたします。

理解（了承ください。なお、法要は、zoomを使ってライブ配信いたしますので、「勝林寺・net」でぜひ）視聴ください。

## 今年の子ども研修会は

中止します

## お知らせ

コロナの感染が、再び広がり若い世代、子供たちにも及び始めました。安全を担保するだけの手立てができず、子供たちの夏休みが短いことを考慮して、今年の仏婦子ども研修会は、中止させ

勝林寺のホームページを覗いたくには、先月号でお知らせしたQRコードから入っていただき、「勝林寺・net」で検索して入

法要のライブ配信を視聴いただくには、予めzoomというアプリを入れていただく必要があります。なお、リアルタイムでご覧いただけない場合でも、あとでビデオとし

二日（日） 弘道校区 戰没者追悼式  
石田久美子宅 初盆  
八日（土） 大石 英明宅 初盆  
八月勝林寺予定

## 勝林寺 戰没者追悼法要

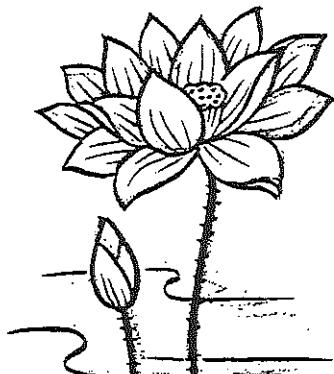
※今年は、代表者（責任役員、総代会長、仏社会長、仏婦会長、法輪会会長、遺族代表）のみの参拝で勤めさせていただきます。

二日（日） 弘道校区 戰没者追悼式  
石田久美子宅 初盆  
八日（土） 大石 英明宅 初盆  
八月勝林寺予定

死ぬ瞬間（二〇〇一・八月）

今年もまた、お盆の日が近づいてきました。遠い日に、また近い日に、別れた肉親たちのことと思うことです。しかし老境に入った私にとっては、それとともに、自分自身の死を、身近に思うことです。「散る桜、残る桜も散る桜」です。改めて、自分こそ、しつかりと死の準備をしておかなければならぬと思うことです。

去る五月に、親戚の女性ががんで亡くなりました。年齢は、五〇歳でした。三年ほど前から、その病気を告知されて、懸命に治療に励んでいました。一時はよくなつたようと思われましたが、やはりがんは各所に転移していきました。彼女はそのことを通して、いつそう熱心に聞法を重ねていきました。私もたびたび、手紙をしたためて、真宗の教えを語り、お念佛を受けとめていきました。病院に見舞った時も、明るい笑顔で迎えてくれました。一人娘が、今春三月に大学を卒業するので、それまでは元氣でいたいと言つっていましたが、その願いをかなえました。彼女は、最後に、親族の一人一人に別れの挨拶をし、娘にうながされ、再会を約束して、お念仏を申しながら、息をひきとつたといいます。美しく安らかな死であつたそうです。



するといいます。そんなはずはない、何かの間違いだろう、というわけです。そしてその病気が間違いないと分かると、次には怒るといいます。どうしてこんな病気には私がからなければならぬのか、そんな思いから、自分を取り巻く周りの人々に対して、その怒りをぶつけるといいます。そしてその次の段階になると、取引を始めるといいます。この病気が、どうしても避けられない、治らないとすれば、せめてこれだけはかなえて欲しいという、交換条件を申すわけです。しかしながら、やがて病気が進行して体力が衰えると、抑うつ状態に陥ることになります。

そして患者は、そのような経過をたどりながら、衰弱がひどくなり、病気に疲れ切つてくると、最後の時が近づくのを静観し、そのことを受容するようになると、いいます。しかし、この時に、その患者が自分の宗教をもつてゐるか、そうでないかが、大きな課題になるようです。誠に深く深く考えさせられる書物であります。

「念仏もうすとこに、立ち上がつてい  
く力があたえられる。どこまでも自分の  
ことしか考えない、自分たちだけの幸せ  
を求めてやまない、その浅ましいことに  
気づかされて、慚愧の念と感恩の念が重  
まれる。そして、及ばずながら、せめてで  
きるだけお役に立ちたいと願うようにな  
る。お念仏は、このような徳を持つている  
ので」とあります」（西元 宗助）

「感謝」とか「恩返し」という言葉を用いています。「お世話になった方々へ感謝し、恩返ししたい」などです。それは本心からの素直な表現だと思いますが、自己満足でしかないのではと思う時があります。

世間一般的な「感謝」とか「恩返し」の使用は、「他者」よりも「自分」が優先されているのではないかと考えます。私たちは自分優先の感謝を相手に押し付けて、それで恩に報いたと勝手に納得しています。「私から他者への心」を「他者から私への心」として受け止められると、ころに、本当の感謝の心が語られてくるのではないかでしょうか。「恩」は私が誰かに差し上げるものではなく、私が様々な方からいだいたものだということです。お念佛も同じです。私たちが「南無阿弥陀仏」と唱えることは、「仏恩報謝」あるいは「報恩感謝」のお念佛だとよく言われますが、阿弥陀さまからいただいたお念佛であることが、信心を得たということなのです。(月々のことば)より抜粋)

感謝の気持ちは暑中見舞いをかねたお札状でお伝えします。今年は、切り絵作家の久保修さんのミュージアムで買い求めた絵葉書にお札の言葉を書きました。とっても素敵なはがきだったので、きっと気持ちちは十分伝わったと思います。このお札には、三・四年前までは、昨年亡くなつた母が、趣味で描いていた絵手紙を使つっていました。久保修さんの作品には、足元にも及びませんが、九〇歳のおばあちゃんが描いた「世界に一枚きりのはがき」ですから、届いた方には喜んでいただいだにだろうと勝手に思っています。私としては、せつかく時間をかけて丁寧に仕上げた作品を、「お札状」という重要な役割を持たせはしたものの、投函してしまふと二度と見ることができなくなつてしまふので、「本当に使つていいのかな」と思つたのですが、母は「使つてくれたらうだなー」と納得してぱつぱと使っておりました(笑)八〇歳から始めて九〇歳を超えても時間があると筆を持つていました。花が好きだったので、題材の多くは家庭に咲く花やいただきものの花。特別な道具など一切使わず、最後まで孫や娘の絵の具セットのお下がりを大事に使って描いていました。生きているうちに「すごいね、うまいね」って言葉にして伝えればよかつたなと思います。(文責 坊守)

七

「お中元」の季節です。勝林寺にも、遠く離れたご門徒さんやご縁のある方から「お供え」として送っていただきます。もつたいなくありがたいことです。気持ちは暑中見舞いをかねたお礼伝えします。今年は、切り絵作家のさんのミュージアムで買い求めたにお札の言葉を書きました。とつ敵なはがきだったので、きっと気お札の言葉を書きました。とつ敵なはがきだったので、きっと気お札の言葉を書きました。このお札は、三・四年前までは、昨年亡くなりました。久保修さんの作品には、足が、趣味で描いていた絵手紙を使いました。及びませんが、九〇歳のおばあちゃんを描いた「世界に一枚きりのはがき」から、届いた方には喜んでいただきただろうと勝手に思っています。私は、せっかく時間をかけて丁寧に書いた作品を、「お札状」という重要な持たせはしたものの、投函してしまったので、「本当に使つていいのかな」と二度と見ることができなくなつてしまったのですが、母は「使つてくれたらいい」ので、「本当に使つていいのかなー」と納得してぱつぱと使ってお底うれしそうにいうので、「それもそした（笑）八〇歳から始めて九〇歳をても時間があると筆を持つていまし花が好きだったので、題材の多くは花咲く花やいただきものの花。特別ななど一切使わず、最後まで孫や娘の具セツトのお下がりを大事に使つていました。生きているうちに「すごい、うまいね」って言葉にして伝えればつたなと思います。（文責 坊守）